10年目を迎える i-mono・i-waza ブランド認定制度

認定企業の魅力と強み

川口商工会議所では、市内の優れた製品や高い技術を認定する「i-mono・i-wazaブランド認定制度」を実施している。本年度で10年の節目を迎え、現在、72企業・73件の製品・技術が認定されている。

認定企業に対しては、東京インターナショナルギフトショー等の展示会への出展をはじめ、認定パンフレット・ホームページへの掲載、川口駅東口前「キャスティビジョン」での映像放映、市内行政施設や金融機関での展示等、幅広い支援を行っている。

川口i-mono・i-wazaブランド認定製品・技術
合計73件（48製品・25技術）

KAWAGUCHI i-mono・i-waza

- 暮らしにまつわるいいもの**18製品**（キッチン、ホビー・ファッション・生活用品、住宅・インテリア・エクステリア、教育・芸術）
- ビジネスを広げるいいもの**30製品**（医療・健康、機械装置・付帯部品、建設・流通、環境）
- 伝統が育んだいいわざ**25技術**（生産・加工・処理技術）

金融機関展示ブース

展示会

「i-mono・i-wazaブランド認定制度」は、本商工会議所役員議員、行政機関、学識経験者、関係機関等によって構成される認定協議会が設置されており、ブランドの認定や推進方法について決定している。今号では、協議会メンバーの一人で平成21年の設置以来、「ブランド認定コーディネーター」として本制度に携わってきた野口 満氏に話しを聞いた。これまでに多くの認定企業と接し、社長の理念や製品に対する熱いこだわりに触れてきた氏から見た、認定企業の魅力と強みを紹介する。

i-mono・i-wazaブランド認定企業はなぜ力があるのか

認定企業を見ると、自社製品を製造しているため、設計から行っているという企業が多くあります。小回りが利いて、大企業に頼らなくても商売が成立しています。

例えば、製造ラインの機械を生産する場合、枠組みはアウトソーシングしたとしても、要となる部分は、**永年の経験によるノウハウ**がないと機能しないわけですが、認定企業の多くは非常に高い設計技術を持っています。

また、企業同士の交流やネットワークも活発です。ある認定企業では、受発注・部品管理・生産工程などの生産管理システム製作を別の認定企業に依頼しました。別の企業の役員が以前、システム製作を専門にしていたため実現できたそうです。知り合ったきっかけは地元の若手経営者の会合だったようですが、この事例は**様々な業種が集積している川口**だからこそ生まれた縁ではないかと思います。

伝統技術と最新技術の融合

川口には最終製品を製造していないけれども、非常に高い技術を持つ企業がたくさんあります。そういった企業の魅力に光を当てるには、「モノ」という概念だけでカテゴライズすることは難しいため、その「ワザ」を認定していこうということで、5年前にi-wazaブランド認定制度を立ち上げることになり、制度設計に携わりました。

職人・名工の技術

新しい認定制度がスタートし、i-monoブランドとして認定されていた企業がi-wazaブランドに切り替えたところ、展示会で反響があり売り上げが拡大したという話を聞きました。**ブランドの認知されやすさや、イメージの伝わりやすさ**は大切です。企業の営業戦略においても同様のことが言えると思います。

技術力の高い企業に共通することは、高度な職人の腕を持ちながらも、それに頼るだけでなく、しっかりとデジタル化が出来ていることです。技術を数値化することで、高精度の製造・加工を実現しています。

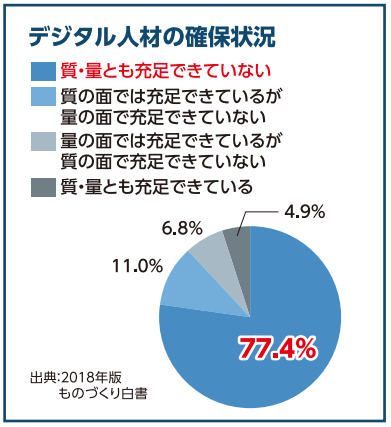
ものづくりの基本は図面です。まずイメージを図面化することから始まり、平面の図面ではイメージが掴みにくいので、木型を作成して3次元化します。デザインを決めたら、型を起こして生産するというのが通常の開発の流れです。この図面

川口商工会議所
企業支援コーディネーター／ブランド認定コーディネーター　野口 満

1964年ホンダ技研工業㈱入社、主に新素材開発や部品の軽量化の業務に従事する。退職後、特許流通事業、知的財産総合支援センター、よろず支援拠点に在籍し、知財管理を中心に県内企業を支援。2009年から川口商工会議所i-monoブランド認定制度コーディネーター、2018年4月から企業支援コーディネーターを務めている。

の作り方がCADによって大きく変わりました。

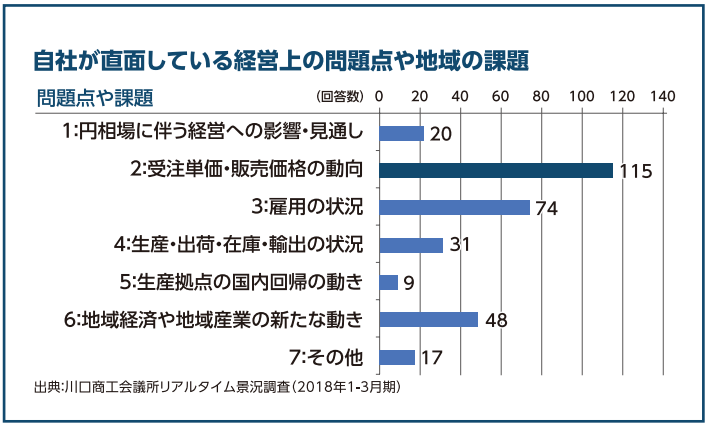
i-mono・i-waza認定企業の多くが、早くからCADを導入しています。市内全般を見ても、デジタル化やコンピューター技術は、ほかの地域と比べて非常に先行している印象があります。



新たな付加価値をつくる

これからは、製品を作って終わりではなく、**サービスを開発し高めていく**ことも重要だと思います。実際に、ブランド認定企業の中でもシステム開発やメンテナンスなど、「モノ」、「ワザ」では括れない分野で魅力を発揮する企業が増えています。ある認定企業では、メンテナンス部品を常時ストックし、注文時に即納する体制を整えています。製品自体の性能が高いことはもちろんですが、高度な要求に対するきめ細やかな対応が、企業と製品に対する信頼性を高めています。

スタートから10年目を迎えて、i-mono・i-waza認定企業もたくさん増えてきました。今後は、**企業同士でチームを組んで動く**ことも必要かと思います。例えば、川口の技術をパック化しキャラバンスタイルにして、自動車業界や医療業界などに売り込んでみてはどうかと思います。営業にあたっては、技術が分かる人間でないとアピール出来ません。これまでは社長のネットワークが営業でしたが、メディア活用など多様な発信を取り入れていく、企業の意識醸成も大事だと思います。



大きな環境変化を迎える

ものづくりにITは、必須になっています。工業用コンピューター技術は、まずヨーロッパで航空機メーカー等により1996年頃から発達しました。日本でも大手自動車メーカーは90年台からIT技術を使っています。

その後、およそ20年かけてものづくり企業を中心に浸透していき、ドイツがインダストリー4.0(※)を提唱して広がりを見せたのは3年前のことです。「IoT」や「AI」等の言葉を様々な場面で耳にするたび、IT技術が急速に進歩していることを肌で感じます。**5年後、10年後の製造業は全く違う形になっていく**でしょう。無理に先行投資をしなくてもよいですが、イノベーションを自分で生み出さなくても、世の中を理解する必要はあると思います。

デジタル化やコンピューター技術の導入を先進的に進めてきた川口ですから、この変化にも必ず順応し、さらに強みを増していけると思います。魅力あふれる企業が川口にはたくさんあります。**この変革期をチャンスと捉えチャレンジしていく**ことで、さらなる発展が期待されます。

(※)ドイツ政府が推進する製造業のデジタル化・コンピューター化を目指コンセプト。生産工程や流通工程のデジタル化により、生産性を向上させることを主眼に置いている。

川口 i-monoブランド認定製品
川口 i-wazaブランド認定技術
募集開始

販路開拓支援をはじめ個々の企業に合わせた伴走型支援で強力にサポートします。

■募集対象

i-mono (1)川口市内で生産または製造された製品・部品であること。ただし、食料品は除く。
(2)既に市場に存在する製品であること。

i-waza (1)ものづくりの製造に関わる技術(技能含む)。ただし、知財産権等において係争中のものは対象外とする。
(2)既に市場に存在する技術であること。

共通 (3)川口市内に主たる事業所(会社にあっては、法人市民税が課税される事業所)を有すること。
(4)事業に必要な許認可を取得していること。 (5)市税を完納していること。

※認定は、基準に基づき審査が行われます。

【申込締切】8月31日(金) 募集要項等、詳細はホームページをご確認ください。
http://www.kawaguchicci.or.jp/brand
【問い合わせ】経営支援課 TEL:048-228-2220

認定証の交付、ブランド商標・ロゴマーク